

「教育の質保証」実践セミナー

福岡 6/12 (火)

大阪 6/19 (火)

東京 6/22 (金)

<セッション1> 13:00~14:05

戦略的に「教育の質保証」に取り組むとは？

～ より多くの教職員の協力を得られる説明法 ～

近年、「教育の質保証」の取り組みが、各高等教育機関において急速に整備されました。しかし、負担感だけが増し、成果に繋がっていない学校も多く見受けられます。一方で、学力の3要素や、ジェネリックスキルなど、高等教育機関で育成が期待される力に変化が起こっていることも見逃せません。これらは、カリキュラム上どのように位置づけ、育成に取り組めばよいのでしょうか。「教育の質保証」という概念は大きく、一見分かりにくいので、日々の担当業務が教育の質保証の一部を担っているという意識を持ちにくい側面があります。しかし、全体を一つのシステムとして捉えなおし、組織全体で共有することができると、一人一人の担う役割が分かり易くなり、教育の質保証が効果的に機能し始めます。

本セッションでは、「教育の質保証」の概念を組織全体で共有し易い考え方をご報告することを通じて、カリキュラム・マネジメントを考えるための前提知識をご確認いただきます。



- ・教育の質保証の全体構造を1つのシステムとして捉えなおすことで、一つ一つの取り組みを有機的につなげ、成果に繋げる方をイメージできるようになります。
- ・学科で育成を目指す専門性と、学力の3要素の関係が整理され、いま求められる質保証にどう対応していくべきかを考えられるようになります。
- ・「高等教育無償化や私学助成の基準見直しの中で求められる「教育の質保証のためのアセスメント」の必要性を、学内で分かり易く説明できるようになります。

教育の質保証
基礎編



濱野 彰彦

株式会社ハウインターナショナル ビジョンセンター長
株式会社学びと成長しくみデザイン研究所 取締役

<セッション2> 14:20~16:20

カリキュラム評価の在り方とその改善手法

～ 今あるカリキュラムから出発する ～

2017年4月1日より3つのポリシーの一体的策定と運用が求められるようになりました。しかし、いったい何ができていれば一貫性のある3つのポリシーと言え、カリキュラムとも整合性が取れていると言えるのでしょうか。また、カリキュラムを評価する際には、何を基準にどのような指標を基に評価を行うと適切であると言えるのでしょうか。更には、すでに動いている現状のカリキュラムがある中で、どのように改善を行っていけば、適正なカリキュラムに改善していくことができるのでしょうか。

カリキュラム評価を実践していくには、様々な課題があります。本セッションでは、カリキュラム評価を行う上での理論的整理から、自大学のカリキュラムの改善策を考えるとところまで、参加者同士での意見交換も交えながら、現実的な方策を見出せるように考えを深めていきます。



- ・カリキュラム評価の必要性を、学内で説得力を持って説明するための素材が手に入ります。
- ・今あるカリキュラムを出発点に、教育効果が高く、学生の学習成果が明らかになるようなカリキュラムを、作っていくプロセスがイメージできるようになります。
- ・様々なカリキュラム評価の方法を知ることによって、自校において取り入れられそうな方法が見えるようになります。
- ・学内で生じる様々な障壁や課題、ならびにその対策を知ることによって、自校において円滑に組織をマネジメントする方法が見えるようになります。

☞持参物
自大学の3つのポリシー並びにカリキュラムアセスメントの現状がわかる資料があればお持ちください。

カリキュラム改善
理論&実践編



佐藤 浩章

大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授
日本高等教育開発協会 会長

<セッション3> 16:35~17:45

カリキュラム・マネジメント・サイクル確立に向けた実践事例

～ 「学内合意の進め方」と「評価・改善の取り組み」～

カリキュラム・マネジメント・サイクルは、執行部の判断だけでは確立できません。学修成果測定と、その検証までは進められても、カリキュラムへのフィードバック(改善)へ繋げるには、教員一人一人の協力が不可欠です。

どう合意を形成し、議論を組み立てれば、教員が主体的に関わり易くなり、担当する授業が変わり始めるのか。また、教員同士の議論が活性化し、学科がチームとして動き始めるのか。学内事情は大学ごとに異なります。しかし、実際に取り組みが進み始めた大学には、共通点があります。

本セッションでは、実際に動き始めた大学の事例をご紹介することを通じて、どの大学でも利用できるフレームワークを示し、具体的な一歩を踏み出すためのイメージを得ていただくことを目指します。



- ・「3つのポリシーの点検」を起点に科目の連携性を高め、カリキュラム・マネジメントに繋げていくための全体構造をイメージできるようになります。
- ・学科がチームとして動き始めるための合意形成のプロセスを、具体的にイメージできるようになります。
- ・どのようなカリキュラム評価のアプローチが、どのような改善につながるのかを知ることを通じて、自校の評価の在り方を検討できるようになります。

カリキュラム・マネジメント
実践事例編



桑木 康宏

株式会社ハウインターナショナル 取締役学びと成長サポート事業部長
株式会社学びと成長しくみデザイン研究所 代表取締役